



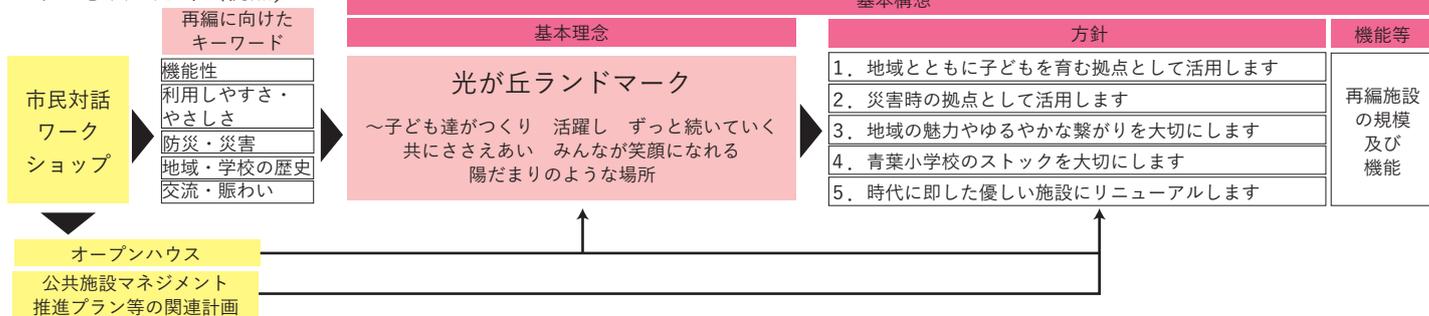
光が丘地区の公共施設再編に向けた取り組み

- * 小・中学校の児童数減少に伴い、令和7年4月を目途に、青葉小学校を閉校し、周辺の小学校に再編するという対応方針を定めています。
- * 今後閉校することになる青葉小学校の学校跡施設は「避難所としても使える、子どもや地域の活動の場」を基本とした利活用を検討していきます。また、療育センター陽光園、陽光台保育園など、子どもに関する地区内の公共施設の多くが築40年以上を経過しており、建替えなどを検討する時期を迎えています。
- * 令和3年度に、市民対話ワークショップを行い、今後の青葉小学校の利活用の構想につながる、再編コンセプト、具体的な活用方策、アイデアなどを検討していただきました。

光が丘地区学校跡施設（青葉小学校）利活用基本構想

* 市民対話ワークショップの成果を踏まえ、本事業の実現に向けた基本構想として、基本理念と方針などをまとめました。

基本理念及び方針（視点）



市民検討会の概要

【全4回の市民検討会の日程について】

第1回 (10月8日)	目標を共有しよう！ これまでの取組や市民検討会の目的を共有する
第2回 (11月13日)	テーマごとに考えよう！ テーマごとに分かれて、地域に必要な機能を考える
こどもワークショップ (12月11日) 自由な発想で考えよう！	
第3回 (1月中旬)	テーマごとに考えて、成果をまとめよう！ 第2回までの成果などを踏まえ、テーマごとに考えをまとめる
第4回 (2月下旬)	市民検討会の成果をまとめよう！ テーマごとの成果を共有して、磨きをかける

【市民検討会委員の構成と運営体制】

基本計画の策定に向けて、日頃よりまちづくりや地域活動にご尽力いただいている地域の関係団体や関連施設からの推薦のほか、一般公募による参加者など、様々な立場や世代の方々総勢21名によって構成されています。様々なアイデアを出していただくため「ワークショップ形式」で行います。



ファシリテーターを東京都立大学の讃岐先生にお願いし、東京都立大学の学生スタッフや相模原市職員が運営をサポートしていきます！

10月8日に第1回ワークショップを開催しました！

第1回ワークショップは「目標を共有しよう！」をテーマに行いました

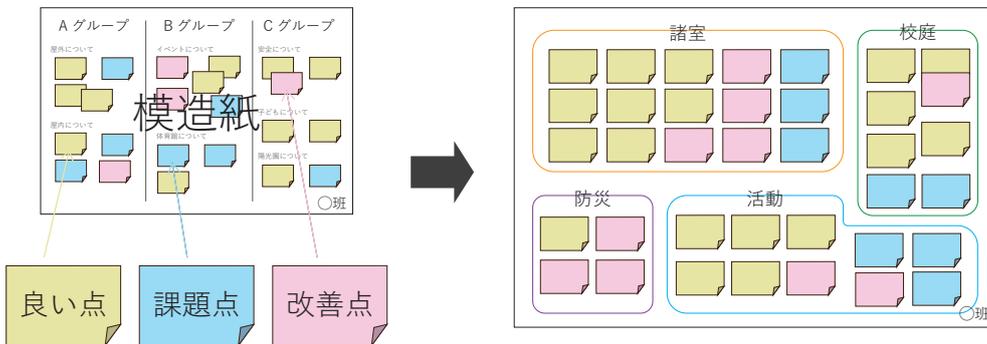
ワークの内容

ワーク：昨年度の議論を踏まえて方向性を考える



まず、昨年度のワークショップの活動に関して、讃岐先生や市役所の方々から説明を受け、小学校紹介動画を見て、イメージを膨らませていきました。

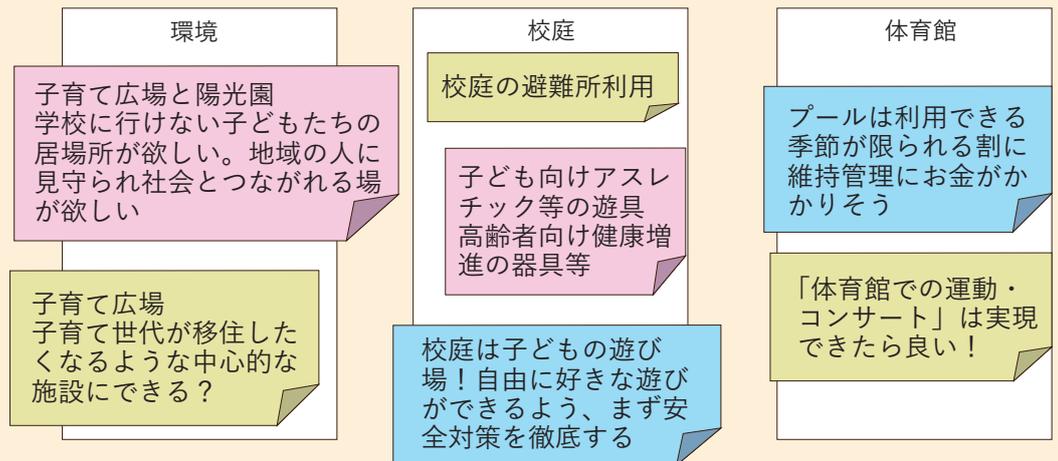
続いて、昨年度の3グループの結果に対して、意見を出し合いました。「良いところ」「課題」「さらに改善できそうなところ」を抽出して、付箋に書き出し、模造紙に貼り付けました。これをもとに各班で話し合い、何を大事にしていきたいか、今後の施設の大まかな方向性を考えていきました。



第1回目ワークの結果

1班

地域の人子どもを支える「子育て広場」をつくりたい



「子ども」というターゲット層をさらに具体的にイメージし、そこで活動する一人一人の顔を思い浮かべて議論できている点がこの班の強みだと思います。
次は、子ども達がどういう風に活動するのか、誰が運営し、支えていくのかという議論に発展すると良いですね。議論を深めていけばさらに魅力的な案が生まれると感じました。



讃岐先生

2 班

地域の人が安全に活動できる場をつくりたい



安全

いろいろな人が利用できるのは嬉しいが安全管理面の考えも必要

来るまでの動線の安全性。通り抜けできない⇒防災性

バリアフリーで交流できる公園の計画が良い

校庭・体育館

校庭の活用として休日にコンサート、キッチンカーを入れた時、安全面の確認は？

校庭の多目的利用、とても良いと思います。夢が広がる

地域住民のみの運営は難しい。企業の参加が必要

防災

防災について、地域で利用しやすいように考えられている

防災公園としてかまどベンチの設置は良い

まず、「地域住民や施設利用者の安全」という重要なキーワードがありました。ともすると「安全」は、「地域への開放」に相対するキーワードだと思われがちですが、安全面を確保しながら地域に開いていく可能性について議論を深めていただきたいです。また、「道路」も重要なキーワードであると感じました。施設単体の安全面だけではなく、地域としての安全面を考えないといけないという意見は、非常に重要な意見であると思います。



讃岐先生

3 班

子どもから大人までが自由に遊べて学べる施設にしたい



校庭・中庭

子どもが自由に遊べる機能を強く打ち出しているのは良い

避難場所（校庭）をある時は遊びに、ある時は避難に使いたい

キッチンカーも良いがイベントに終わりそうどう日常化するか！

諸室

学校内に子ども食堂などの機能や、給食室の地域利用

子ども食堂などお金の問題は…

特徴をもった諸室（防音室・無料の学習・料理室等）を有効活用している点が良い

その他

学習支援への大学生の参加（リモート可）

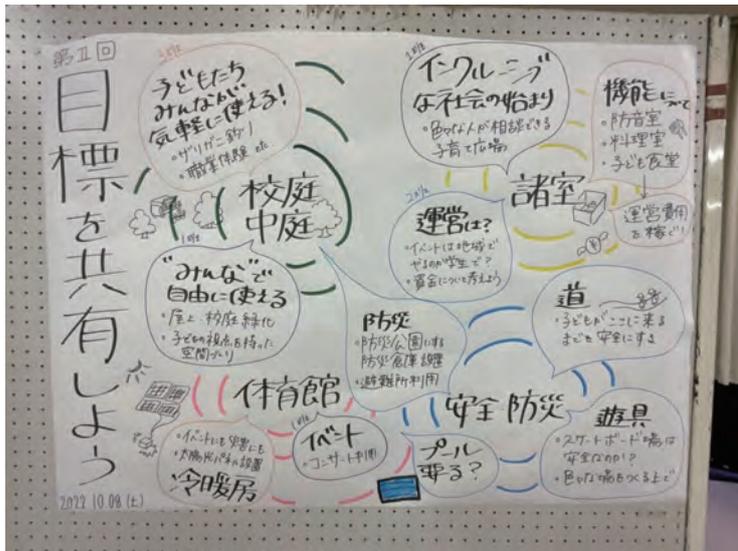
体育館を冷暖房化する。（太陽光発電で使えるようにする）

公民館との一体化のために、同時にリニューアルすると良い

最後の言葉（「大人も子どもも、みんなが自由に楽しく遊べて、学べる施設にしたい」）が重要であると考えています。昨年度の議論では、子ども視点だけでなく大人視点でのアイデアもあったという振り返りが出来たのがまず1つ目の成果であると感じました。そして「自由」というキーワードの発見も注目です。自由には常に責任が伴います。子ども達が気軽に訪れ活動するために、子ども達自身がどう責任をもって施設を使うか、それを地域がどう支えるか、という点について次回に議論が展開されることを期待しています。



讃岐先生



讚岐先生



東京都立大学建築学科で助教を務める。専門は都市計画。多数の自治体で公共施設再編アドバイザーや市民ワークショップの講師を担っている

プールについて、縮小した方が良いのではないかと、本当に必要なかという、現実を見据えた取捨選択・拡張の指摘があったのは、経営的な視点、マネジメントの目線を参加者の皆さんが持っているという証拠だと思います。お金や力、時間をどこに注ぐか、どこを妥協するか、しっかりと選定していくことが、夢物語ではないリアリティのあるものにしていく上でとても重要です。次回以降も生かしてもらいたいと思います。この成果をもとに、今回は場所、機能等のキーワードでグループを再編し、それぞれのグループで議論を深めてもらいます。ぜひ、「マネジメントの視点・目線」をまた持ってきてください。

次回予告

11月13日(日) 14:00～
会場：青葉小学校体育館
「テーマごとに考えよう」
テーマごとに分かれて地域に必要な機能を考える

～これまでの取組について～
相模原市ホームページ>トップページ>中央区>光が丘地区の公共施設再編に向けた取り組み

